

もうひとつの「富士山」



加藤良一 2012年9月4日

男声合唱曲として現在広く知られている名曲『富士山』は、多田武彦の作曲によるものですが、この詩にはほかにも多くの作曲家が作曲しています。それだけ草野心平の詩が魅力的であるということでしょうか。また、日本人にとって富士山は忘れることのできない、誇るべき存在でもあるという証なのでしょう。

草野心平の<富士山>には下に示したような多くの作曲家が作曲しています。(もっともこれですべてとは言えないかもしれませんが…)

<富士山>	入野義朗	内田俊	内田優	杵屋正邦	清水脩	柴田南雄	多田武彦	田中均
作品第壹(一)	●	●			●		●	
作品第貳(二)		●						
作品第參(三)		●						
作品第肆(四)		●	●			●	●	
作品第伍(五)	●	●			●	●		
作品第陸(六)	●					●		
作品第捌(八)	●					●		
作品第拾(十)	●							
作品第拾肆(十四)						●		
作品第拾陸(十六)					●		●	
作品第拾捌(十八)	●				●		●	●
作品第貳拾壹(二十一)							●	
作品第貳拾參(二十三)				●				

<富士山>のうち最も多く作曲されている詩が、壹(一)、肆(四)、伍(五)、拾捌(十八)でそれぞれ4人の作曲家が手掛けています。

草野心平は、富士山を題材とした詩を昭和15年(1940)から順次発表しました。昭和18年(1943)には17篇をまとめて詩集<富士山>として刊行しました。その後も、富士山にまつわる詩を発表し続け、昭和48年(1973)には、あらためて26篇からなる連作詩集<富士山>として世に出しました。このときに「作品第壹」(一)から「作品第貳拾陸」(二十六)まで番号を付けて整理しました。

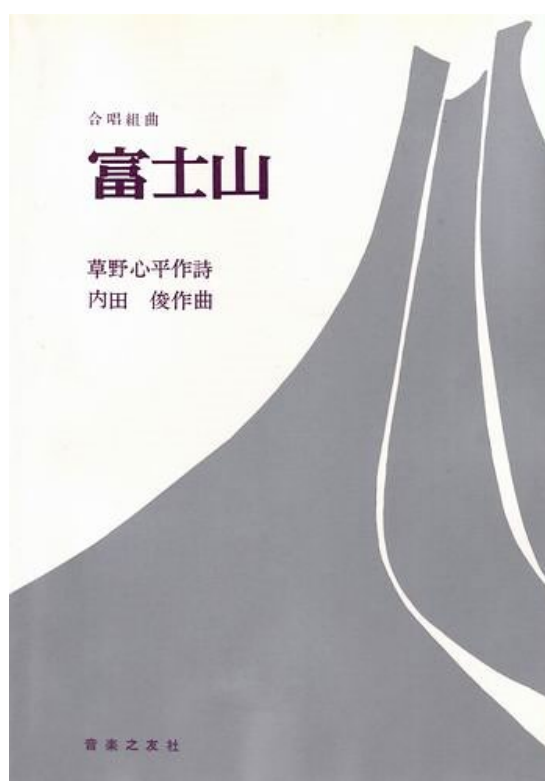
詩集<富士山>の冒頭には<日本の未来におくる>と認められており、草野心平の富士山に対する並々ならぬ思い入れが感じられます。草野心平は、『蛙』と同じく、生涯にわたって富士山の魅力を追求し続けました。

だいぶ前のことになりますが、古書店で見慣れない『富士山』の楽譜が目にとまり、即座に買い求めました。それは、内田 俊という聞き慣れない作曲家の手になる昭和42年(1967)12月10日発行の混声版でした。下に示したように、作品第壹(一)から第伍(五)までを連続して作曲しています。

富士山 (混声合唱)

内田 俊 作曲

1. 作品第壹(一) Andante grazioso
麓には桃や櫻や杏咲き。むらがる花花に蝶は舞ひ 億萬萬の蝶は舞ひ…
2. 作品第貳(二) Adagio
皆目。雪の灰色の。灰一色の霏霏霏霏
霏霏は いつしか大きなうねりになり…
3. 作品第參(三) Largo
劫初からの。何億のひるや黒い夜。大きな時間のガランドウに重たく坐る大肉體…
4. 作品第肆(四) Allegrette
川面に春の光はまぶしく溢れ。そよ風が吹けば光たちの鬼ごっこ、葦の葉のささやき…
5. 作品第伍(五) Andante
火の山の。ほむらはあかく雪に映え。ゆるやかなほむらは雪の肩に映え。…



多田武彦の男声合唱『富士山』は、昭和45年6月30日発行ですので、内田俊はそれより3年前にすでに作曲していました。後発ですが、現在演奏される『富士山』はほとんどが多田武彦の男声合唱作品です。

上の一覧表に掲げた作曲家以外にも『富士山』に作曲したものがありましたら、ぜひ教えて頂きたいと思います。

〔関連資料〕

- ▶ (M-36) 作曲家と演奏家 (2003年10月16日)

Back

「音楽／合唱」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る